

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平10-179176

(43)公開日 平成10年(1998)7月7日

(51)Int.Cl.

C12N 15/09
A61K 38/00
39/395
45/00
C07K 14/315

統別記号

ZNA
ADZ

P 1

C12N 15/00
A61K 39/395
45/00
C07K 14/315
16/12

ZNAA
Y

審査請求 未請求 請求項の数24 FD 外国語出願 (全103頁) 最終頁に続く

(21)出願番号 特願平9-299298

(22)出願日 平成9年(1997)9月24日

(31)優先権主張番号 60/027030

(32)優先日 1996年9月24日

(33)優先権主張国 米国(US)

(31)優先権主張番号 60/040656

(32)優先日 1997年3月10日

(33)優先権主張国 米国(US)

(71)出願人 591002957

スミスクライン・ピーチャム・コーポレイ

ション

SMITHKLINE BEECHAM

CORPORATION

アメリカ合衆国ペンシルベニア州19406-

0939、キング・オブ・ブルシア、スウェー

ドランド・ロード709番

(72)発明者 マーティン・カール・ラッセル・バーナム

アメリカ合衆国19403ペンシルベニア州ノ

ーリスクタウン、タングルウッド・レイン

2927番

(74)代理人 弁理士 齋山 茂 (外1名)

(64)【発明の名称】 新規 IgA Fc結合タンパク質

(57)【要約】

【課題】 新規な IgA FcBP および該タンパク質をコードするDNAが盛まれている。

【解決手段】 本発明のポリペプチドのアミノ酸配列を、ストレプトコッカス IgA FcBP 等の他のタンパク質の既知アミノ酸配列と比較することにより、その相同性を検討することで新規な IgA FcBP を提供するものである。また、組換え技術によりかかるポリペプチドを製造する方法: 感染、および細菌感染を処理するためのかかる IgA FcBP の利用方法: かかる IgA FcBP に対するアンタゴニストおよび感染および細菌感染の処置のための治療用としての使用: IgA FcBP 核酸配列およびポリペプチドの宿主中の存在に関与する疾患の検出のための診断アッセイ: および IgA FcBP をコードするポリヌクレオチドの検出および宿主中のポリペプチドの検出のための診断アッセイをも開示する。

BEST AVAILABLE COPY